

# NEWS RELEASE

化合物光半導体素子の生産能力強化  
都田製作所、第3棟完成  
竣工式は11月15日

2017年11月14日

**浜松ホトニクス株式会社**

本社：浜松市中区砂山町 325-6

代表取締役社長：晝馬 明(ひるま あきら)

当社は、今後拡大が期待される赤外光応用市場に向け、化合物光半導体素子の生産能力を強化するため都田製作所第3棟を建設していましたが、このたび完成し、2018年4月から稼働を開始します。

竣工式は11月15日に執り行います。

\*化合物光半導体素子：光半導体素子は一般的にシリコン（Si）を材料とするが、化合物光半導体素子は複数の材料を組み合わせて製造する。組み合わせる材料や比率を変えることで、シリコンが得意とする可視領域とは異なる光の領域、特に波長が長い赤外光領域に対応した受発光素子を実現できる。



当社は、主力製品である光電子増倍管やSiフォトダイオードなどの主に可視領域で使用される受光素子のほか、赤外光も含めたさまざまな光の領域に対応した製品を販売しています。今後、赤外光応用市場の拡大が見込まれるため、化合物光半導体の受発光素子の生産能力を強化します。

赤外光は食品や大気、水質などの分析用途のほか、レーザ加工などの産業用途でも利用が進んでおり、今後も医療やセキュリティなど多様な分野で応用市場が拡大すると予想されています。また、先進運転支援システムおよび自動運転システム向けの赤外光を用いたLiDAR（Light Detection And Ranging）は、急激に市場が拡大すると見込まれています。これらの応用市場では、用途に応じて受発光素子の性能を最適化する必要があります。当社は受光、発光の両素子を生産している世界でも数少ない企業であり、用途に応じて最適な素子を開発、製造してセットで提案できるという強みがあります。今後も強みを活かして、赤外光応用市場に製品を供給していきます。

\*LiDAR：物体にレーザを照射して反射光を検出し、物体までの距離や形状などの3次元情報を得る装置。大気観測システムなどに使用されており、今後は車載向けのほか、セキュリティ、産業用ロボット向けの市場も拡大すると予想されている。

当社は、現在複数の拠点で化合物光半導体素子を製造していますが、新棟に素子の性能を大きく左右する前工程（エピタキシャル成長、加工プロセス）を集約し、蓄積してきた独自の製造ノウハウを融合します。また、自動化の推進および最新の生産管理システム導入で生産性を高め、全社の生産能力を2インチウエハ換算で月産1,000枚から月産2,000枚に増強します。上記により、高性能、高品質な化合物光半導体素子を高い生産性で市場に供給することが可能となります。

\*エピタキシャル成長：下地となる結晶基板上に薄膜結晶を堆積する方法。結晶基板上にさまざまな種類の薄膜を積層して、用途に最適な半導体を作製することができる。

竣工式などの詳細につきましては以下の通りです。

#### <竣工式>

式典名称	浜松ホトニクス株式会社 都田製作所 第3棟 新築工事 竣工式
日 時	2017年11月15日（水） 午前10時00分～
場 所	静岡県浜松市北区新都田1-8-3 都田製作所 第3棟3階

#### <新棟概要>

建物名称	都田製作所第3棟
建築場所	静岡県浜松市北区新都田1-8-3 都田製作所 第1棟西側
建築工期	2016年10月着工、2017年11月竣工
稼働予定	2018年4月
建築構造	鉄骨3階建（免震構造）
建物面積	建築面積3,767㎡、延床面積9,944㎡（内クリーンルーム 約4,400㎡）
施設構成	工場棟 1階 玄関、資材受入、出荷、生産室（クリーンルーム クラス10,000） 2階 製造事務所、休憩室、生産室（クリーンルーム クラス10,000） 3階 検査・測定室、会議室、生産室（クリーンルーム クラス10,000）
	附属棟 1階 機械室
総工費	約43億円
収容人員	約100名
生産品目	化合物光半導体素子
生産能力	2インチウエハ換算 月産2,000枚

以上



都田製作所 第3棟 外観

この件に関するお問い合わせ先

■報道関係の方 浜松ホトニクス株式会社 広報室 野末迪隆  
〒430-8587 浜松市中区砂山町 325-6 日本生命浜松駅前ビル  
TEL053-452-2141 FAX053-456-7888 E-mail:nozue-m@hq.hpkk.co.jp  
時間外は、携帯電話 080-8262-0374 へお願いします